

## 第5回 高畑山～野原峠～谷田峠

平成25年1月11日（金）晴

行程

P1K車 9:37－県境ライン 9:51－高畑山 10:46－野原峠昼食 11:41～12:07－13:07  
谷田峠 P2F車

隊員

船越 仁 角原 覚 妹尾東祐 佐々木順栄 角原鶴子



今日は前回残した谷田峠迄の約3kmを潰しに来た。谷田峠にF車をデポし、上石見経由で繋ぎ地点に到着した。上石見からの野原峠は本当にカリカリのアイスバーンです。

何しに来たのか不思議がられながら、牧場に駐車させて貰い歩きの出発です。オレンジテープナビを付けていた県境土塁に沿って登り始める。暫くの間、小枝の柴が邪魔をする。高畑山頂上が近付くと雪も多く、なだらかになり歩き易くなって来た。高畑山776.1m 3等三角点（点名高畑）は、あちこち掘り起こしてやっと出て来た。灯台元暗し、ポールの下にありました。頂上からの展望は左手に大倉山（鳥取）、中央右手奥に花見山（県境）です。



今日は短路の楽勝行程、野原峠の陽だまりで昼食とした。

峠からの取り付きは決まって急登です。そして谷田峠に辿り着いた。今日で神郷地域は終了だが、この谷田峠にはもう一度来なくてはなりません。

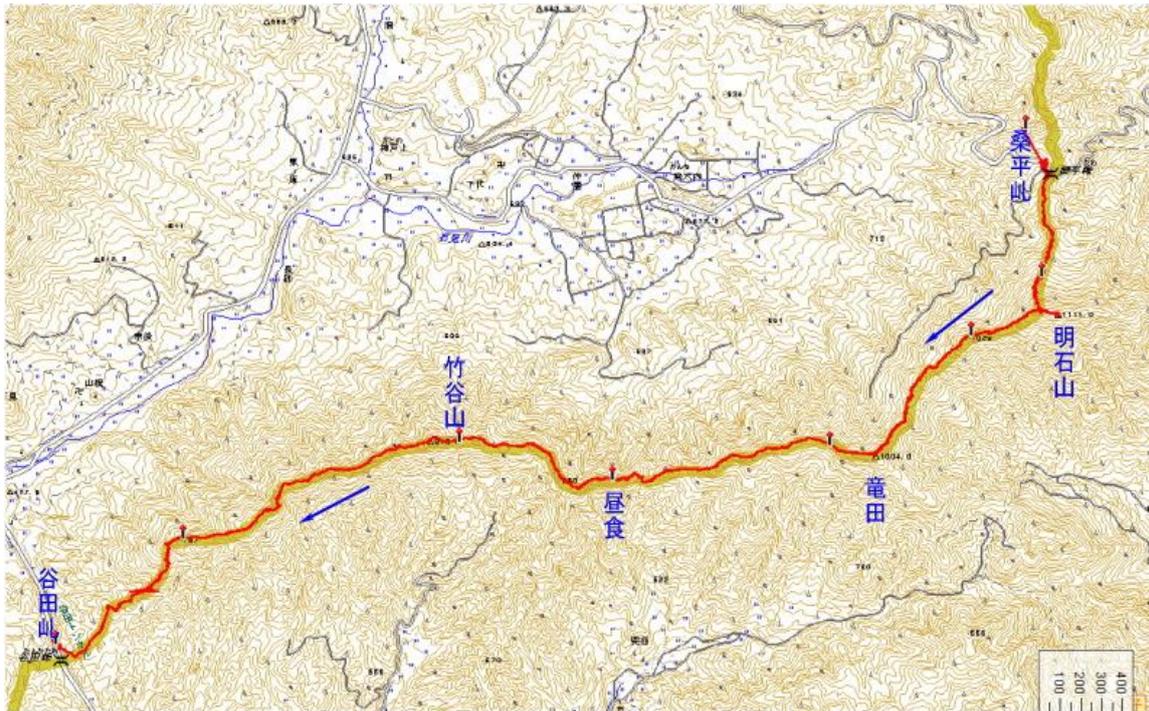
## 第6回 桑平峠～明石山～竜田～竹谷山～谷田峠 平成25年1月27日(日)晴

行程

桑平峠 8:20－明石山登山道出合 8:36－明石山 9:35－竜田 10:47－昼食 11:50～12:22－竹谷山 13:13－谷田峠 14:46

隊員

船越 仁 角原 寛 妹尾東祐 佐々木順栄 角原鶴子 佐々木靖昌



昨夜来の雪で路面は圧雪、気温はマイナス7度だ。今日でこの神郷地域を終了すべく、いつもより早く岡山を出発した。谷田峠にはこれで3度目の車のデポである。

今日の出発は桑平峠からとし、上石見から花見山スキー場入口を経由して桑平峠に着いた。尾根に取り付き暫くすると明石山登山道に合流した。NHCとあるから新見ハイキングクラブさんかな。立派な案内標識だ。迂闊にもこの稜線に一般登山ルートがあることは知らなかった。急登になるのでジグザグに登る。佐々木靖昌隊員が頑張ってくれます。積雪は40cm位かな、新雪15cmの下はクラストしていて比較的歩き易い。風はなく空は晴れ上がっていて気持ち良い。樹氷が綺麗です。明石山頂上1111.0mは県境稜線から岡山県側に150m程入っています。最高の天気なので、折角の山を素通りする訳には行きません。当然ながらその3等三角点(立石)は見付けることは出来ません。

木漏れ日の樹氷稜線、それもやや下り、これぞ冬の稜線歩き、最高のひと時です。880m標高点の手前のコルで昼食を済ませ、カンジキを装着した。履くのが面倒でもやはり履くべきだ。今年初の装着だが楽で歩き易くなった。右手に大倉山が見えてきた。谷田峠はもう近い。そして谷田峠に降り着いた。道路の雪は綺麗に融けている。

往路は伯備線沿いの県道8号だったが、桑平峠経由で千屋に下り国道180号で帰路についた。岡山県側も綺麗に除雪してはあるが、道幅が狭くカーブが多い。

## 第7回 桑平峠～八重桜公園～花見山～千年樹森峠 平成25年2月3日(日)曇

行程

桑平峠 8:20-4等八重桜公園 9:21-花見山スキー場最上部 10:03-図根点 1146m 10:43-花見山昼食 11:07~11:39-北峰分岐 11:56-終了峠 13:12-いぶきの里 14:08

隊員  
船越 仁 角原 覚 赤木貴久子



今日は節分、明日は立春、暖かい。新見市千屋でもプラス2℃です。いぶきの里スキー場にF車をデポし、K車で桑平峠に向かう。先週とは違って変り、峠道に全く雪は無い。

桑平峠からダイレクトに尾根に取り付いた。ゴソゴソの雪が20cm程しかない。すぐにアンテナのある場所に出た。早目にカンジキを履いて楽をする。突如スキー場の真上に出た。沢山のボーダーやスキーヤーで賑やかだ。4等三角点標柱がある筈だ。これはどうしても掘り起こさねばなりません。その点名は、今をときめく「八重の桜」なのです。

思いもかけず自然に、花見山スキー場を通ることになった。県境稜線が此処なのです。暫くは賑やかな県境です。素晴らしく上手な子供がいるねえ。スキー場はまだまだ長いよ〜。

花見山頂上にもNHCの立派な標識がありました。此処は360度の眺望だ。さすがに1等三角点だけのことはある。

突然、ここは三冠王だ！と気付いた。三冠王の山とは？

それは日本に数えるほどしかありません。

1等三角点、県境、中央分水嶺の3つを備えた山を云います。岡山県には仏ヶ山だけの筈。それなのに何故？ 後日疑問は解けました。この花見山は1等三角点の補点だったのでした。本点との格の違いか、残念！

少し早い昼食を済ませ、北峰に下りて来た。千屋温泉への分岐だが、ここから降りるわけには行きません。予定通り更に尾根伝いに北進です。次回の為、名称不明の峠(千年森の峠と私称)にテープを付け林道を下山した。林道途中の少し奥に見覚えのある千年森の石碑がありました。

## 第8回 千年樹森岨～茗荷岨～三日月山～剣月岨 平成25年2月11日(月)曇

行程

いぶきの里 8:37-千年樹の岨 9:27-昼食 11:51~12:25-茗荷岨 12:46-三日月山  
14:25-剣月岨 15:05-いぶきの里 15:45

隊員

船越 仁 角原 覚 赤木貴久子 角原鶴子 西崎博子 岡田至弘



前回の終了点の岨へ向かう。3日前の寒波で降った雪のお陰で何とか雪道が楽しめる。県北でも西寄りの新見は今年格別に積雪が少ないようだ。

岨に着いた。右の稜線を上る。歩き易い緩い上りだ。所々に県境標識が顔を出している。その程度の雪です。とは言ってもそんなに甘くは無い。植林帯を抜けると笹尾根になる。それも中途半端な沈み様なので、ソファの上を歩いているようです。雪布団の下は笹のバネです。時々抜ける。此处でカンジキを履いた。本日初参加の岡田隊員はスノーシューだが、やはり初参加の西崎隊員は雪が初体験なのです。それも購入したカンジキにベルトが付いていない。急遽、修理用具にて応急処置して一日持ち堪えた。

茗荷岨が真下に見える展望場所で昼食とした。茗荷岨迄200m下降し、も一つ向うへ300m登ります。その雪面は急な登攀になりました。雪山初体験の西崎隊員も良く頑張った。三日月山到着、やはりNHCさんの立派な頂上標識です。三日月の間に顔を覗けて記念の写真を撮りました。天気が少し荒れ模様になってきた。此处からはほぼ直線の登山道です。通常よりも雪の下りは楽勝です。丁度この下辺りが明智トンネルです。更に下って時間は3時過ぎ、このコルを剣月岨と私称して遊歩道を下山した。

## 第9回 剣月峠～剣山～明智峠～蓬平山～蓬峠

平成 25 年 2 月 14 日 (木) 晴

行程

明地トンネル 8 : 33 - 剣月峠 8 : 55 - 剣山 962m 10 : 05 - 明智峠 10 : 39 - 昼食 11 : 44 ~  
12 : 13 - 849 コル 12 : 39 - 蓬平山 1085m 13 : 50 - 蓬峠 14 : 49 - 蓬 16 : 08

隊員

船越 仁 角原 覚 赤木貴久子 角原鶴子



自宅を出るときの気温はプラス 1℃、さすがに立春を過ぎると冷え込みは無い。だが千屋に近付くにつれ気温はマイナス 4 度になった。峰の上部には樹氷か積雪か。昨日降ったようで、田圃一面真っ白になってきた。空は真っ青で天気も最高、楽しい

雪上歩きを期待して、国道 180 号を右にそれ井原地区の蓬（よもぎ）集落に向かう。県道 443 は大井野に続く道だが、蓬以東は冬季通行止めだ。下山はこの井原川に沿って下ることとし、K 車をデポさせて貰う。

明智トンネルの空地スペースの隅に F 車を置いて出発です。剣月峠から本日の県境歩きの始まりです。ひと上りすると、オ、オ～全く予期せず、大山ではないか！ 気持ちの昂りを抑えながらカンジキを履く。今日は高みに出ると必ず大山が目に入る山行になった。その真っ白な大山も、午後には南壁の所々が雪崩落ちたのだろう、黒い地肌が何か所も現れていた。剣山頂上は大山から花見山、360 度の大展望です。これから一旦明智峠に 200m 下降して 300m の上り返しです。この下りは通常は階段登山道と思われるが、非常に急な雪面となっており、滑落に注意しての下降となった。

明智峠を少し上がった所に峠の三体地蔵があった。更に 100m 登って大山を眺めながら昼食を摂り、更に 200m 登る。すると思ってもよらぬ大平原に出た。冬、誰も訪れぬ天空の草原に大感激！ 頂上に向かって五体投地です。大山も覗いています。

こんなに素晴らしい雪草原のピークが無名峰ではインパクトなく、私称だが蓬平山（ヨモギダイラ山 1085m : 表紙の写真）とした。地元の方にお話を聞いたところ、蓬地区の一時代前の山菜刈場だったらしい。さて、ここからの県境線は非常に難しいです。真っ直ぐ伸びた尾根は県境ラインではなく、井原川方向に伸びている。50m 程引き返した辺りが県境なのだが、全く尾根はありません。地形図で確認するとずっと下の方で尾根は張り出すが、上部からは全く不明です。県境杭が雪の下では GPS のみが頼りとなりました。